

印西市の認知症施策について

【基本的な考え方】

令和5年6月に公布された認知症基本法、および第9期印西市高齢者福祉計画の基本理念に基づき、当事者の意思の尊重、認知症に対する理解の促進、あらゆる分野で参画する機会の確保が実現されることを目的として各事業に取り組んでいく。また、認知症とともに生きる、共生社会の実現を目指し、認知症に対する正しい知識の普及と認知症支援に対する理解の促進を重点目標とする。

【印西市の認知症に対する事業】

①認知症ケアパスの作成

認知症の状態に応じたサービス利用の流れを示したケアパスを作成。

相談時や認知症に関する講座を行う時に資料として使用するほか、イベント会場への設置、医療機関、居宅介護支援事業所、コミュニティーセンター等への配布を行った。

また、試作を続けていた本人用ケアパスを完成させ、医療機関等へ配布した。

②認知症カフェ（オレンジカフェ）

認知症に対する正しい理解を広め、認知症になっても安心して住み続けられる地域をつくることを目的として、当事者・家族・専門職・地域住民などが集える「認知症カフェ」を開催する。

指標	実績				
	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7.9月末 (2025)
参加人数(人)					
※各年度末時点	317	736	764	859	220

③人材育成

認知症地域支援推進員・認知症コーディネーターなどが、相談支援の現場でとらえた当事者や家族の意見から、必要と思われる事業を検討し、その実現に向けて活動する。

以下の3つのチームに分けて活動している。

- A:「知る」⇒ケアパス・周知啓発・イベント等の検討
- B:「育てる」⇒認サポ・チームオレンジ・本人参加・家族会等の検討
- C:「つながる」⇒カフェ・他機関連携・初期集中支援等の検討

④認知症サポーター養成

認知症を正しく知り、やさしく見守ることができる「認知症サポーター」を養成する。

令和6年度は市内小学校 17 校(計 1,131 名養成)で開催したほか、個人でも参加できる市主催の一般市民向けの講座では 36 名が受講した。

指標	実績					
	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7.9月末 (2025)
認知症サポーター養成 (人)※各年度末時点	107	1,033	1,565	1,316	1,457	202

⑤初期集中支援チームの設置

認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目的として活動する、認知症初期集中支援チームを日本医科大学千葉北総病院に委託して実施。認知症の方を支える支援体制づくりの一助として活用するとともに、共に支援を行う関係者の認知症支援のスキル向上に資するものとなっている。

指標	実績				
	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
対応実件数(件) ※各年度末時点	2	10	9	4	3

⑥認知症周知啓発事業

認知症に対する正しい理解を深めるために、講座の開催や広報紙・ホームページ等、様々な方法で認知症についての正しい知識と理解を広めていく。今年3回目となる「認知症メモリーウォークinいんざい 2025」をイオンモールにて開催。38名が参加した。



広報紙・ホームページ等に認知症についての記事を掲載するほか、出前講座の実施で認知症についての周知を図る。啓発物の作成・配布を含め、様々な方法で認知症についての正しい理解を広めていく。9月に啓発用のティッシュを作成したほか、市内書店や図書館での認知症関連図書コーナーの依頼を行った。

指標	実績					
	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7.9月末 (2025)
出前講座参加者数 (人)※各年度末時点	24	27	38	43	91	56

⑥その他

◎脳活問題集の作成

オリジナルの問題集を作成し、高齢者福祉課や地域包括支援センターで配布。
令和7年度で第4弾を発行した。

◎ちよきん運動のグループに対して、認知症予防について講話を実施。

◎市ホームページに認知症についての解説動画(日医協力)や予防についての動画掲載

◎認知症啓発のための映画上映(お仕事フェアとコラボ)